



廣報

ナカホ 市民の友

第616号 毎月1回発行
2002年(平成14年)

5 月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(協)丸正印刷

みんなでできこう

..ラジオ広報..

「那覇市民の時間」毎週土曜日
RBC 午後4時30分から40分まで



那覇市
ホームページ

<http://www.city.naha.okinawa.jp/>



主な紙面

- (2面) 指定ごみ袋制スタート
(3面) 波の上ビーチ・海びらき
(4面・5面) 尚王家継承文化遺産が国重要文化財に
(6面) 那覇港管理組合を設立
(7面) 情報PACK

その若者たちはある想いを抱いていた。「ほくたちのエネルギーを活かして今できることをやりたいたい」と。そして、考えた。「人と人がつながるきっかけをつくらう。自分を、まちを元気にしていこう」と。そんな想いで結成された「地域活性化協力隊 We love Okinawa」の「祭り」企画が昨年、ボランティア国際年記念事業に選定された。実施までのさまざまなシーンでスタツフ、ボランティア、地域、踊り手、観客、それぞれの出会いが混ざりあっていた。さらには沖縄と高知、パランクーと鳴子も混ぜ合わされた。

「第一回もーれもーれチャンプルー祭り」（3月24日）は県内から14団体と7アーティスト、高知県から2団体の総勢約600人が参加。会場はパレットくもじ前広場、緑ヶ丘公園、平和通り・サンライズなほ通り。

「ハーイヤ」と太鼓、パランクーを打ち鳴らして勇壮に舞う工イサー。鳴子を手に「ほにやさこい 踊らにやさそん」と現代風アレンジのよさこいで軽快に舞う土佐つ子たち。

フィナーレは演舞者全員での力強いチャーシーとなった。降りそそぐ雨は花吹雪、北風は熱風と化した。踊りの波は待ちかねた観衆をも呑み込んで脹れ上がり、土佐の渦潮となつて乱舞した。



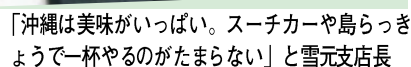
支店の視点③

ゆきもと しょうじ
雪元章司

(農林中央金庫
那霸支店長)

1958年（昭和33年）生まれ。
鹿児島市生まれの大分市育ち。
入社後、東京本店のほか、
青森、金沢、大阪の各支店で勤務。
那覇支店には2001年7月に着任。
那覇支店の業務は、地元農林漁業
の協同組合の業務のバックアップ、
地元企業への融資、農林債券や投
資信託の顧客向け販売など。

農林中央金庫那霸支店
(松山1-2-12)



「沖繩の歴史と文化がたたずまい、南島の匂いと活気に満ちあふれた、深く熱く濃い街、那覇のまち」。

これは那覇市と那覇市観光協会が作成・配布している観光ガイドブック「那覇の旅」の見開きに大きく書かれているメッセージです。

三月末に沖映通りに那覇市観光案内所がオープンしたと聞き、早速出向いてみましたが、今年もまた、たくさんの観光客をお迎えしようと、スタッフの皆さんがはりきっております。

那覇市の観光資源はとても豊富です。首里城・識名園・公設市場などの名所旧跡、やちむん・紅型などの工芸関連施設、大綱挽き・ハーリー・マラソンなどのビッグイベント、多彩な飲食店、そして琉舞・民謡・ジャズ・演劇などの幅広い芸能。皆さんが暮らしているこの街には、十分な魅力があるのです。

けれども、考えてみますと、「もう一度那覇に行きたい」という人たちの印象や想い出は、こうした「定番コース」を訪れることだけで形づくられているわけではありません。

都市には風土や生活に培われたそれぞれの表情があります。旅行者は、街に流れる風や光や音というものを全体として感じとり、私たちが何気なく通っている街角、あるいは普段着の会話や語りかけなどを深く心に残すものではないでしょうか。

そういう意味で私が感じているこの街の魅力の一部をあげますと、たとえば、多くの住宅が花や観葉植物で飾られていることです。市街地でもちよつと表通りから住宅街などに入りますと、とても穏やかで癒される空間に出会います。また、子供が元気に遊び、若者がファッションパブルで、お年寄りもはつらつと働いている、そんな街全体にみみぎる活気、人々のパワー。これは他の土地にはちよつとない特有の魅力です。

このような街の雰囲気をも体的に宣伝するのはなかなか難しいのでしようが、とにかく、市民の皆さんの「健やかな日常」も貴重な観光資源にちがひありません。

市政には引き続き、この街の笑顔を絶やさないよう、頑張つてほしいと思います。

本庁市民課・国民健康保険課の窓口は毎日午後6時まで開いてます。(土・日、祝日を除く)